

# 音楽都市こおりやまが好き

## 音楽あふれるまちづくり



全国レベルの心に響く演奏を披露する金透小学校の皆さん

「音楽都市」という言葉は、本市を現す重要なキーワードです。音楽活動が盛んな本市は、「東北のウィーン」と称されたこともあり、今でも多くの音楽団体が個性ある音楽会を開催し、多くの市民の皆さんが音楽を満喫しています。新年を迎え、ご家族で大きな声で歌ってみませんか。音楽あふれるまち郡山で。



### 音楽によるまちづくりの成功

戦後、音楽活動の息吹が芽生えた郡山では、本格的なオーケストラの演奏会を熱望する市民の声が高まりましたが、市内には適当な会場がなく実現されませんでした。しかし、昭和29年、転機が訪れます。郡山音楽協会、郡山青年文化協会の尽力と市の協力をより、国鉄郡山工場食堂を会場とし、NHK交響楽団の公演が行われ、音楽を愛する市民の願いがかないました。この公演は、4千人の大観衆に大きな感動を与え、同時に、音楽運動を行う人々の大きな自信となり、その後の「音楽によるまちづくり」に大きな影響を与えました。

### 音楽の拠点・市民会館の建設

NHK交響楽団の公演を契機に、「音楽（文化）の途中下車」を合言葉とした、文化誘致運動が展開されました。大きな音楽

会は、仙台市や福島市での開催



◀ 音楽都市郡山のシンボルとして役割を果たした市民会館

NHK交響楽団 ▶  
演奏会の模様  
(昭和29年)



が多い時代に、この運動の盛り上がりは「東北のウィーン」の下地を創り、本格的な交響楽団の演奏が可能な近代会場施設の待望論を高めました。こうした世論を背景として、市では麓山公園周辺に、労働会館（現・労働福祉会館）、図書館（現・歴史資料館）とともに、昭和33年、市民文化活動の拠点・市民会館を建設しました。こうした市民活動と市によるまちづくりは、「愛市運動」として大きな盛り上がりを見せました。特に、市民会館の建設には、商工業の皆さんが主体となり結成した「愛市連盟」によって集められた、市民からの寄附が会館建設の費用の一部に充てられました。

音楽都市郡山を次々に報じる新聞

福島民友新聞（昭和37年11月3日付）



福島民報（昭和41年11月4日付）



昭和46年の郡山市民音楽祭ですばらしいハーモニーを披露するおかあさんコーラスの大合唱（郡山市民文化祭半世紀のあゆみから転載）

音楽都市郡山  
東北のウィーンへの道

市民会館が建設されたことを機に、昭和34年郡山勤労者音楽協議会（以下、労音）が結成されました。会員数は1年に満たない間に、6千人を越え、さらに予約会員1千600人という大成を収めました。このことは、当時の人口や音楽人口を考えると、せいぜい1千500人程度と考えていた主催者の予想を大幅に上回り、全国労音の中でも異例

の発展を遂げたと言えます。労音の活動はめざましく、毎月音楽例会を開催し「良い音楽を安く、多くの人に」を現実のものとししました。また、市民会館の完成後は、毎年世界的な音楽の公演（右表）が続ぎ、地方興行の常識を越えた入場率は「奇跡」と評されました。

開館直後の5年間に市民会館で行われた世界的公演会

主な公演	
昭和 34	ウィーン少年合唱団 ユーゴスラヴィア国立コロ舞踊団 ジェラルド・スーゼ独唱（フランス）
昭和 35	ボストン・シンフォニー・オーケストラ イベット・ジローシャンソリサイタル
昭和 36	ライブチヒ・ゲバントハウス・オーケストラ
昭和 37	アムステルダム・コンセルトヘボウオーケストラ
昭和 38	ロンドン交響楽団 ソヴィエト国立モスクワ合唱団
昭和 39	ソヴィエト国立交響楽団

こうした活動を背景に郡山市は、「音楽都市郡山」、「東北のウィーン」と称され、さまざまなメディアで紹介されました。また、昭和39年に市が主唱し始めた「十万人コーラス」運動は、毎月第3金曜日を「コーラス日」と定め街頭で合唱し、音楽あふれるまちづくりを進めるもので、大きな話題を呼び、「百万人の大合唱（東宝映画）」とし

音楽都市を支える力

て映画化され、「音楽都市郡山」を全国に知らしめるものとなりました。

音楽を中心とするまちづくりは、学校教育にも取り入れられました。金透小学校が、昭和36・37年に全国器楽合奏コンクールにおいて2年連続で第1位を獲得したのを始め、薫小学校・郡山第二中学校・行健中学校なども優秀校となるなど、市民活動の広がりとともに音楽教育の充実が図られました。現在でもその教育方針は受け継がれ、毎年、郡山市小中学校合唱祭・合奏祭・創作祭や郡山市中学校音楽学習発表会が盛大に行われ、日ごろの音楽学習の成果を発表しあう場として、また音楽をとおした学校間の交流を図る場としても大変重要な役割を担っています。こうした活動の中から全国大会に出場する学校は、常にトップレベルで輝かしい成績を収めています。

これらの学校における音楽活動とともに、今年で54回を数える郡山市民文化祭にも、30を越える音楽の団体が参加するなど

**中学校音楽学習発表会に参加して**

毎日昼休みや放課後に練習をし、自分たちで考え、工夫をしたりしたことで、クラスが1つになったと思います。発表は大変緊張しましたが、みんなと歌えて良かったです。

岡部 久人君  
須永 ゆいさん  
(大槻中3年)

※市民会館は、平成2年その役目を終え、幕を閉じました。





▲ 第55回全日本合唱コンクール全国大会でのすばらしい演奏



練習後の反省会



パートマスターを中心に自主的な練習

～温かく透明な歌声を永遠に～

# 安積黎明高校合唱団

## きらめくハーモニーの世界

23年連続全日本合唱コンクール全国大会金賞、8年連続NHK全国学校音楽コンクール全国コンクール金賞など、数々の名誉ある賞を受けた安積黎明高校合唱団。

平成12年に学校内、乙女の森にその栄光を讃え、建てられた「栄光のハーモニー」像には、その歴史が刻まれています。

受け継がれる伝統と団員の皆さんのきらめきをご紹介します。



栄光のハーモニー像

### 美しいハーモニーの源

数々の栄誉を胸に3年生が退団し、後を託された1・2年生58名の練習が、音楽室で始まりしました。

練習は、コンクール直前を除き、平日の放課後1時間半程度だけのため、パートマスターのプラノ、メゾソプラノ、アルトの責任者が前日作成した分分钟の計画に基づき行われます。



星 英一先生

「短時間でできる密度の濃い練習を繰り返すことと、パートマスターを中心とした生徒主体の練習が、生徒一人ひとりの集中力を養い、向上心を働かせ、全体の能力を高めていると思います。」と、指導している星先生から伺いました。

分刻みの練習は、体操に続いて発声練習、パート毎の練習、全体練習、先生の指導、またパート毎の練習と繰り返し続けます。中でも発声練習は、先輩と後輩が対になり、先輩からの指導を受けます。また、パート練習では、パートマスターを囲み、

すべての団員が楽譜と鉛筆を持ち、的確な指摘にうなずきながら素早く書き込んでいました。団員の動きは終始機敏で、先輩の思いやりのある指導と後輩の礼儀正しい行動は、まさに日本一の合唱団の風格と伝統そのものでした。こうした伝統は受け継がれ、乙女の森の美しいハーモニーとなり、音楽都市郡山の象徴として、これからも響き渡ることでしょう。

### 卒業後の輝き

卒業生には、今も合唱に魅せられ、各地で活動している多くの方々があります。去る12月には、合唱団OGによるコンサートが開催され、音楽都市郡山の魅力をまた1つ増やしてくれました。卒業後のこうした活動も伝統校の輝きと言えるのではないのでしょうか。



定期演奏会でのOGの皆さん

### 合唱が大切なものを教えてくださいました



高橋(旧姓内藤)恵さん  
(昭和55年卒)

連続受賞の最初の年、東北大会の帰りに郡山駅前では校歌を歌ったことを覚えています。私は今、合唱と出会えたことで、人とのふれあいや仲間を持つことの喜びを感じています。それは、みんなの力が一つになって初めて美しいハーモニーが完成する合唱が、大切なものを教えてくれたからだと思えます。今後も自分の生き方として、合唱を楽しみたいと思います。

### 伝統の歌声をいつまでも



橋本 明恵さん  
(2年生)

全国大会は、お世話になった3年生の先輩と一緒に歌う最後のステージでもあり、23年連続金賞という重圧よりも、歌うことができる喜びと納得のいく演奏をしたという気持ちでいっぱいでした。今でも、演奏後の楽しさや充実感は忘れられません。この気持ちを先輩に受け継ぐため、伝統の練習とそれと得られる温かく透明な歌声を守っていきたいと思います。



# 音楽に魅せられて

# 私が思う音楽都市のこおりやま

郡山市では、本市出身の市外在住者で、情報発信力の豊かな方にフロンティア大使をお願いしています。今回は、お二人にメッセージをいただきました。



箏曲演奏会



ギターアンサンブルコンサート



マーチングバンド演奏会

## 人づくりに果たす音楽の役割と21世紀郡山への期待

音楽は、それを創り出す人、作曲家、演奏家の人間として持っている世界のすべてが反映しながら生み出されているものと私は思っています。それを私はコスモロジーと言っていますが、それはその人の生い立ち、経験学習、そして生の方向性から成り立っているものです。私は郡山に生まれ育った経験と学習が

幼少の頃からインプットされているので、私の音楽には、郡山の気候、風土、環境が、宇宙に連なるものとしてあると思っています。郡山はかつて「東北のウィーン」と呼ばれたこともあり、現在でも音楽都市を標榜していますし、実際、高校生による合唱の長い歴史をはじめ、その名にふさわしい実績を持って

## 真の音楽都市になるために ～願いを込めて～

なぜ、郡山が『音楽都市』といわれているか、それは一部のそういった夢を持っている方々が言っているに過ぎない。また、「東北のウィーン」などという形容はもう使われなくても良い時期になってきているのではないだろうか。本当に音楽を愛する市民がすでに大勢いる。それをどう表したらよいか市民の

方々も彷徨っているに違いない。もちろん、合唱やオーケストラは他には類を見ないほど、盛んなまちだ。ただ、それが一人ひとりのものとしてなかなか育たない。その理由を早く見つけたいとても残念に思う。バッハ研究会もある。市民オーケストラもある。合唱団もある。それにたくさん子ども

- 一、郡山にプロフェッショナルなオーケストラを作る。
  - 二、市の財政の1パーセントを音楽のために使う。
  - 三、音楽の専門的知識を有する学芸員を置く。
- の3つを提案したいと思います。真の意味の音楽都市郡山となるため、実現されることを心から希望しております。

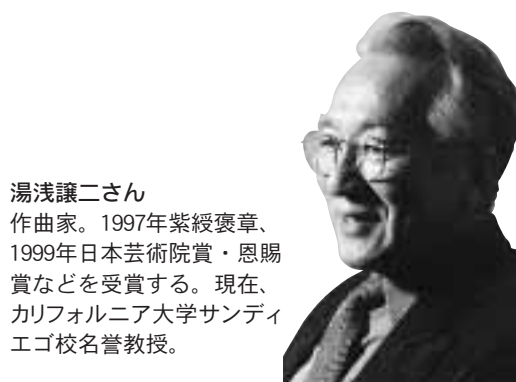
たちのオーケストラがある。世界でも稀だ。でも何かが足りない。続かないのだ。必ずしも『第九』が良いとは限らないが、なぜ恒例にならないのでしょうか？合唱に青春を捧げたみんな！歌いつづけてください。そしてオーケストラで感動を分かち合ったみんな！また一緒にやってください！

1月26日のふれあいコンサートでお待ちしています！



**本名徹次さん**  
指揮者。1992年ブダペスト国際指揮者コンクール第1位。現在、ベトナム国立交響楽団ミュージックアドバイザー。

© Akira Kinoshita



**湯浅譲二さん**  
作曲家。1997年紫綬褒章、1999年日本芸術院賞・恩賜賞などを受賞する。現在、カリフォルニア大学サンディエゴ校名誉教授。





郡山には、個性あふれるコンサートがいっぱいです。その中でも、全国に誇る3つのすばらしいコンサートを紹介します。皆さん、音楽都市郡山を感じてみませんか。

## 郡山きらめき21ふれあいコンサート(1/26)

本市出身の本名徹次さん(前出)が指揮する大阪シンフォニーカー交響楽団の優美な演奏で、チャイコフスキーの名曲の数々もありません。

### 一般公募でコンサート

#### 共演者を決定

オーケストラと共演してみたいと思ったことのある人は、意外と多いのではないのでしょうか。そんな夢を叶えてくれる「ふれあいコンサート」の公開オーディションに、去る11月23日、15人の皆さんが参加し、大阪シンフォニーカーと共演できるチャンスに挑みました。

公演当日は、5人の方の夢の共演にもご注目ください。



審査員を前に熱のこもった演奏を披露する参加者

控え室で、わずかな時間を惜しみ練習する様子



御館中学校/全国中学校文芸作品歌曲創作コンクールで、3年連続全国1位。横田泉美さん(3年)も全国2位を獲得。



安積高校/全日本合唱コンクール全国大会に15年ぶりに出場し、金賞初受賞。全国的にも数少ない男声合唱団です。

## トップコンサート

全日本合唱コンクール全国大会金賞受賞の合唱団をお招きし開催する演奏会で、全国の合唱愛好家から注目を集める合唱王国郡山ならではの音楽祭です。

音楽都市郡山から全国への情報発信を目指し、平成7年から開催しています。今年は、3月9日(日)に開催します(詳しくは、2月号号でお知らせします)。

- ・ 全国大会、全国コンクールに出場した皆さんによる全国トップレベルの演奏会です。去る12月8日に開催され、8団体の皆さんによるすばらしい演奏が行われました。
- ・ 「出演団体/演奏順」
- ・ 郡山第二中学校管弦楽部
- ・ 金透小学校特設音楽部
- ・ 安積黎明高校クラシック部
- ・ 御館中学校みため祭テーマソング作成委員会
- ・ FCT郡山少年少女合唱団
- ・ 安積高校男声合唱団
- ・ 郡山東高校合唱団
- ・ 安積黎明高校合唱団